# タイワンガザミの種苗放流指導

多和田　真　周

## 1. 現　状

タイワンガザミの種苗放流は昭和55年度から放流技術開発の一環として継続的に行われている事業で栽培漁業センターが種苗生産、中間育成し、水試が放流後の追跡調査を実施している国庫補助事業である。放流場所は与那城町の海中道路中央付近、岸から150～200 mの砂泥底及び藻場に直接放流している。

## 2. 目　的

栽培漁業の推進

## 3. 協力者

与那城町役場・与那城町漁協・水産振興課・水産試験場・栽培漁業センター・中城沿振協

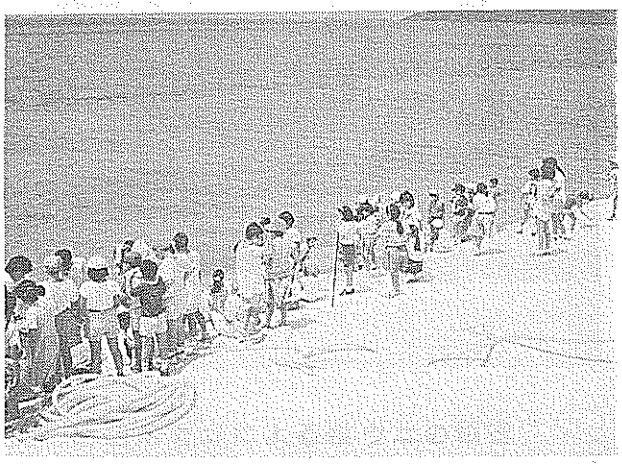
## 4. 経　過

H 6年度第1回目の放流は栽培漁業センターで生産された稚ガニ（13万匹：平均甲幅5.5～7.0㎜）を活漁水槽に収容、トラック2台で与那城町海中道路中央付近の放流予定場所まで輸送し、200 m沖の藻場にジャバラホースを使用して6月29日に放流した。第2回目は7月18日に第1回目と同じ場所、同じ方法（活漁水槽内のシェルターはオゴノリ類の海藻を使用）で46千匹、平均甲幅14～15㎜を放流。しかし、シェルターのオゴノリ類が流し込み途中にジャバラホース内でたびたび詰まり、流し込み作業が遅れたものの放流は無事に完了した。放流作業参加者は組合職員・組合員：8名、水試3名、振興課3名でその日は与那城小学校150名の生徒の課外活動として体験学習があった。

第3回目は7月27日に第2回目と同じ方法（活魚水槽内のシェルターはオゴノリ類の海藻を使用）で103千匹、平均甲幅14㎜を海中道路中央付近、浜比嘉島寄りの道路より150 m沖の砂泥底に直接放流、約半数は簡易の網囲いの中に放流した。漁協及び組合員は8名参加した。

第4回目は8月25日に第2回目と同じ方法により180千匹：平均甲幅7～8㎝を放流した。今年度は第1～4回を合計すると400千匹を越え、過去最高の放流数を記録した。

ホースによる稚ガニの流し込み作業



与那城小学校児童による稚ガニ放流の体験学習